

はじめに

令和6年度、埼玉県環境科学国際センター(CESS)は「日本一暮らしやすい埼玉」に環境面から貢献しつつ、開設24周年を迎えました。今年度から今井章雄研究所長が就任され、研究員との交流も深まっております。

令和4年度からスタートした5年間の研究所中期方針も道半ば、二つのセンター、三つのコア、そして四つのタスクフォースがうまく機能し、試験研究、国際連携、環境学習、そして情報発信においてもその活動が見える形になってきました。

試験研究成果の評価としては、堀井勇一主任研究員が、日本環境化学会から環境化学学術賞を受賞、長森正尚担当部長が全国環境研協議会関東甲信静支部 支部長表彰、市川有二郎主任が、大気環境学会年会にて論文賞を受賞されました。また、酒井辰夫センター長が、日本環境衛生センター理事長から生活環境改善功労者として感謝状を贈呈され、研究推進室の茂木守室長が全国環境研協議会総会にて会長賞を受賞されるなど、CESSでの研究の蓄積と貢献が実り、高く評価されたことは関係者一同、誠に喜ばしいことでした。

今年度のセンター職員表彰として、二件、業務対応の模範となる渡辺洋一主任専門員、八潮市道路陥没事故の水質調査に迅速、かつ責任感を持って対応した池田和弘主任研究員、田中仁志担当部長、木持謙担当部長、見島伊織主任研究員、渡邊圭司専門研究員、宮崎実穂会計年度任用職員の6名の皆さんが選ばれました。

国際連携においては、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)のVOCsモニタリング活動や、日本学術振興会(JSPS)の二国間交流事業で、カンボジア、チリ、中国、韓国、マレーシア、フィリピンなどへ研究員を派遣しています。また中国山西農業大学との連携セミナーなど、海外研究者や視察者等受入れ交流は百数十名でした。また、県内では民間企業との連携を支援する社会実装化も着実に進捗しております。

環境学習は、「彩かんかん」をはじめ、生態園の見学者も増え、情報発信においては、彩の国環境大学基礎課程やセンター講演会もハイブリッド方式が定着し、全国から広く視聴していただけるようになりました。YouTubeやFacebookなどのSNSをはじめとしたホームページのアクセス件数は年間21万件を超え、新しい時代の流れに対応しております。

「日本一暮らしやすい埼玉県」を環境の面から貢献していくためには、皆様のご理解とご支援を頂けなければならないことはいまでもありません。当センターの活動について様々な視点からの率直なご意見と、ご指導、ご鞭撻を賜うことができれば幸いです。

令和7年3月

埼玉県環境科学国際センター
総長 植松 光夫